

令和6年度 教育事業（生活・自立支援キャンプ）

サマーキャンプin大洲

1 事業概要

松山市の児童養護施設「愛媛慈恵会」の寮生を対象に、国立大洲青少年交流の家を拠点に1泊2日のキャンプを企画した。スポーツ大会や野外炊飯等を行い、自立への支援と生活習慣の改善を図るとともに、寮生にとって楽しい夏の思い出となるよう、多様な体験活動を提供した。



2 事業の目的（ねらい）

様々な経験や体験の機会が少ない児童養護施設に在籍している子供たちに多様な体験活動を経験できる場を設ける。年齢や発達段階に応じて、野外等での活動の場を提供し、達成感を味わわせ、自己肯定感の向上を図る。また、活動前後の準備や片付けを含め、幅広い年齢の仲間と協力しながら活動することで、協調性を高めることも目的とする。

3 企画のポイント

愛媛慈恵会には幼児から高校生まで在籍しているが、学年や性別で分けたメンバー内での活動が多いため、全員での交流は少ない。そのため、全員で交流をする機会として、年齢差関係なく楽しめる活動を希望されていた。また、自己肯定感の向上を図るために、子供たち一人ひとりの活躍の場を増やしたいとの要望もあり、班で協力する活動だけでなく、個人で取り組める活動も取り入れることにした。

昨年度までは、愛媛慈恵会からの要望を確認して交流の家の職員が計画から当日の運営まで行っていたが、今回が交流の家と連携した生活自立支援キャンプとして最終年度の実施となるため、次年度の独自実施を見越して、愛媛慈恵会の職員を中心に計画をお願いした。

- | | |
|--------|----------------------------|
| 4 主催 | 国立大洲青少年交流の家 |
| 5 期日 | 令和6年6月22日（土）～23日（日） |
| 6 場所 | 国立大洲青少年交流の家 |
| 7 対象 | 愛媛慈恵会の寮生及び職員 |
| 8 参加人数 | 寮生 30名（小学1年生～高校3年生）・職員 13名 |
| 9 講師 | 国立大洲青少年交流の家職員 |
| 10 日程 | |

22日（土）

- 8:00 愛媛慈恵会 発
- 9:10 交流の家 着
- 9:30 開会式・オリエンテーション
- 10:00 スポーツ大会
(レクリエーション・ユニカール)
- 12:00 昼食
- 13:00 OZUリンピック
(空き缶積みタワー、ビーズ皿うっし、
エスパーサイコロ、スリッパ飛ばし、長縄飛び)
- 15:30 自由時間
- 16:30 野外炊飯
- 19:00 キャンドルサービス
- 20:30 入浴
- 21:00 就寝準備
- 22:00 就寝

23日（日）

- 6:30 起床
- 7:00 朝のつどい
- 7:30 朝食
- 8:40 退所点検
- 9:00 スポーツ大会
(ペタンク・ストラックアウト)
- 12:00 昼食
- 13:00 開会式、表彰式、記念撮影
- 14:00 交流の家 発
- 15:10 慈恵会 着

11 活動内容

〈第1日目〉6月22日（土）

「スポーツ大会（レクリエーション・ユニカール）」

荒天のため、フライングディスクゴルフを変更して実施した。レクリエーションでお互いの緊張をほぐし、ユニカールではトーナメント方式で全ての班が1位を目指して取り組んでいた。



「OZUリンピック」

（空き缶積みタワー、ビーズ皿うつし、エスパーサイコロ、スリッパ飛ばし、長縄飛び）

年齢差による不利の出ない種目を選び、リレー、個人戦、代表選の順で実施した。班で作戦を立て、お互いに応援し合い、白熱したものとなっていた。



「自由時間」

愛媛慈恵会の職員が主体となり、スポーツを行った。この時間は学年を分けて、中学生と高校生が思う存分体を動かせる時間として設定しており、低学年はなわとびや鬼ごっこをするなど、各々有意義な時間を過ごすことができていた。

「野外炊飯」

愛媛慈恵会内で事前に役割分担を行い、全員で野外炊飯に取り組む工夫をした。小学校低学年は、机拭きとおにぎりづくり、中学年から高学年は食材運びと食器の準備、中学生、高校生は七輪の炭起こしを行っていた。細かな役割分担のおかげで、スムーズに活動が進行できていた。



「キャンドルサービス」

来年度からの自主化に向けて、講師の指導の仕方を参考にしたいということから、玉井義幸氏を講師として招いた。雨天のため、キャンプファイヤーから活動を変更して実施した玉井氏の進行の元、3部構成での実施の仕方、火の神、火の係の役割を確認し、第2部でのレクリエーションでは、ゲームやダンスをみんなで楽しむ姿が見られた。



〈第2日目〉6月23日（日）

「スポーツ大会（ペタンク・ストラックアウト）」

荒天のため、カヌーを変更して実施したペタンクはトーナメント方式、ストラックアウトは全班対抗戦での合計得点で競った。ストラックアウトは、総合得点に大きく影響することから応援の声も大きくなり白熱した大会となった。



12 参加者の声（事業後アンケート結果）

*満足：79% *やや満足：17% *やや不満：4% *不満：0%

- 今回の活動を通して、いろいろな体験をすることができました。青少年交流の家の職員さんたちのおかげで最高に楽しい2日間にする事ができました
- あんまり話したことがない人とたくさん話せたので、楽しかったです。よく話している人とも一緒に遊べたので良かったです。また行きたいです。
- スポーツ大会がとても楽しかったし、知らない人たちと笑い合い、話し合いができたので良かったです。
- OZUリンピックが楽しかったです。愛媛慈恵会の人たちと前より仲良くなれました。昨日と今日のことをこれからの生活に活かしたいです。

13 事業の成果（参加者の様子を含む）

愛媛慈恵会と連携して3年目となり、事業の趣旨や交流の家のルールを理解されていることもあり、協力し合いながら円滑な事業運営ができた。異学年で活動班を編成し、スポーツや野外炊飯等の活動を行うことにより、活動実施後の雰囲気やアンケート結果から、愛媛慈恵会の仲間同士のきずなを深めることができていた。

また、両日ともに悪天候のため、すべて屋内での実施となったが、愛媛慈恵会職員と連携をして荒天時プログラムの充実化を図ることができ、屋内でも十分に楽しめたとの声が聞けた。

14 事業の課題

年齢幅を配慮したプログラムを提供することにより、内容に関しての不満はなかったが、1日目の活動終了時間が低学年にとっては遅いとの意見があった。活動時間については事前に愛媛慈恵会職員と確認して決めたものであったが、荒天時のため全て屋内での活動になったことにより、当初移動にあてていた時間も活動を行えたため、日中の活動量が想定以上に増加したことが要因として考えられる。状況に合わせた休憩時間と活動終了時間の検討をする必要がある。

児童養護施設「愛媛慈恵会」との連携は今回が最後となる。今後は、愛媛慈恵会として、独自に計画した利用を行ってもらえるよう、資金面においては、助成金を活用した利用の案内を行い、継続して利用してもらえるようにする。

（担当：事業推進係員 宮島 淳）